

## 『<sup>とも</sup>共に<sup>あ</sup>在る』ということを考える

～自分と違う考えを受け取る～

9月27日 前期終業式 副校長講話

### 前期を振り返って（1，3，5年生の発表）

4月5日から始まった103日間の前期の終業式が行われました。各学年の発表では、1年1組は、友だちがいっぱいできたこと、学級園で作ったキュウリをみんなで食べてうれしかったこと、プールで泳いだこと、教育実習生と一緒に学習したことなどを発表しました。3年2組は「ひつじのめぐみちゃんとの3年目のくらし」を、副校長先生がお話してくださった15年前のエピソードから、自分たちも「どうして羊を飼うのか」を問い直しました。めぐみちゃんが寂しいから家族が必要だと思って結婚、出産を望んだものの、須坂市動物園飼育員の森山さんに「家族を増やすことは羊の『仕事』」というお話を聞いて、めぐみちゃん一家とのくらしが、自分たちの都合で営まれてきたのではなかったか、これからも問い続けるという発表でした。

5年2組は、防災を自分事にして考えてきたことを発表しました。近々起こると予測されている大規模な地震が、「まさか」ではなく「きたか」で防災・減災ができるように考え、全校児童に取ったアンケートに書かれていた、「避難が始まって紅白帽子を取りに行くこと」の是非を劇にして演じ、命を守るために、自分自身で「最良の判断」できるようにしておかなければならないことを伝えました。また、自作の防災ポスターを各クラスに配るなどの活動も紹介しました。



## 副校長先生のお話

1, 3. 5年生のみなさん、今の提案を心に抱いて、学校の外の人、専門家の人のところへ出かけて行ってほしい、そして「本当にこれでいいの」と訪ねて行ってほしいと思いました。発表ありがとうございました。

・☆・

さて、こんなシーンがあったとします。

竹内「ねえ、こおりおに しない？」

大畑「だるまさんがころんだ がいいなあ」

高木「入れて 入れて」

竹内・大畑「いいよ」

高木「なにやるの？」

竹内「こおりおに！」

大畑「だるまさんがころんだ！」

高木「だるまさんがころんだ やろう」

竹内「えー、こおりおに・・・やりたいよう」

さあ、このあと、竹内先生は、どんなことを言うと思いますか。

**A**さん「じゃんけんしよう」

**B**さん「ぼく、もうやめた」

「あとからきたのに」という人はいないかな。

(数人挙手)

じゃあ、この人たちの場合、実際どうなるか、続きをみてみましょう。

(劇再開)

大畑「高木くん、だるまさんがころんだ やろうよ」

高木「いいね。大畑くん、だるまさんがころんだ やろう」

竹内「えー・・・そうじゃなくってさあ・・・」

ストップ！

竹内君の気持ちって今どんな気持ちだと思う？

「そうじゃなくってさあ」のあとに出てくる言葉、なんだろう？



いろいろな考えがあるよねえ。この後、教室で考えてみてください。  
たとえば、「わかったよ、だるまさんがころんだ にするよ」なのか、「おれ、もういい」になるのか。

☆☆

こんな場面に、もし、こんな人が登場したらどうでしょう。

(吉澤先生：先生役)

吉澤「やあみんな。元気に遊んでるね。仲良く遊ぶことが一番大事。仲良く遊ぶんだよ。じゃあ。」

(竹内先生を残して全員去る)



みんなが吉澤先生だったら、なんていいですか。

\*\*\*\*\*



### 学校目標「共に在る」

この言葉は簡単なようで、とても難しい言葉だと思います。この言葉のとらえをまちがってしまうことがあるからです。

たとえば、同じ考えの人が集まる  
ことが「共に在る」という意味だとと  
らえてしまったり、仲良しの友だち  
といっしょにいることが、「共に在  
る」ことだと思ってしまったりして  
しまう。でも、本当はちがうと思うの  
です。

共に在る

○自分とちがった考えに出合ったとき  
あなたならどうしますか

○いろいろな考えをもった人がいること  
を理解するって、本当にむずかしい

むずかしいことではあるけれど、一年生のみなさんでもほんの少しでも考えられると思います。

たとえば、ヤギさんが下痢(げり)したときでもいい。えさが足りなくなっただけでもいい。電車の乗り方について考えているときでもいい。谷浜鍛錬会の際に、プールで練習を始めたときでもいい。その中で、思いがけないことに出あったとき、自分の思ったこととちがった考えに出あったとき、いきなり「だめだよ」とか、「なにやってんの?」とか、「ちがうよ」と、言うのでしょうか。それとも「どうしてそう思うの」と尋ねたり、「なるほど」って受け取ったりするのでしょうか。それとも、「勝手にすれば」って見放すのでしょうか。

世の中では「いろんな人がいるからね」という言葉は使うけれど、その意味をわかるには時間も体験も必要。でも、いろんな人がいてこそ、学校なんだということも少しずつ感じていってほしい。それができるのも学校。そこには自分を強くしたり、支えてもらったりする人との出会いをつくる「かぎ」があるから。それが学校にはたくさんちりばめられているからです。



今日で、平成30年度の前期が終わり、来週から後期が始まります。この境目の日に、「共に在る」ことを考える時、自分と違う考えを受けとることも届けたいと思い、話をさせていただきました。

**祖父母参観日、たくさんの皆様のご来校をお待ちしております。**

明日は祖父母参観日です。あいにく台風25号が日本海側を通過するという予報で、風雨（特に風）が強い日になるかと思えます。どうかお気をつけてお越しください。

学校にこられましたら、事務室前の受付にお越しの後、来校者プレートをもらっていただき、身にお付けください。ランチルームにはお休みいただけるスペースもご用意していますので、お気軽にお休みください。下校時はお孫さん、お子さんと一緒にお帰りください。

(文責：教頭)